地域再生計画

１　地域再生計画の名称

「ゼロカーボン×健幸都市うえだ」を支える道づくり計画

２　地域再生計画の作成主体の名称

長野県及び長野県上田市

３　地域再生計画の区域

長野県上田市の区域の一部（旧上田市千曲川沿岸及び中塩田、西塩田、別所温泉地区）

４　地域再生計画の目標

４－１　地域の現況

上田市は、平成 18 年 3 月に上田市、丸子町、真田町、武石村が合併して誕生した長野県東部にある人口約 16 万人の県内第３位の地方中核都市である。奈良時代には信濃国分寺が置かれ、戦国時代になると真田家の居城として上田城が築城された。明治・大正期になると養蚕・蚕種業が盛んになり、小県蚕業学校（現上田東高校）や上田蚕糸専門学校（現信州大学繊維学部）などの教育機関が設置されるなど、蚕都上田と呼ばれ、古くから東信地域の中心都市として発展してきた。

気象は、寒暖差が大きい典型的な内陸性気候で、年平均気温は 12℃、年間降水量は約 900㎜ と少ないことから、冷涼で空気が澄み、晴天率が高い地域である。

市の中央部には、日本一の大河である千曲川（信濃川）が東西に流れて平地を形成しているが、南北の山岳部には、美ヶ原高原（八ヶ岳中信高原国定公園）と菅平高原（上信越高原国立公園）があり、水資源や森林資源が豊富で自然環境や景観が優れており、たいへん住みやすい都市である。

市民は主に千曲川を挟んだ平地に居住し、上田駅周辺の中心市街地には、学校、官公庁、文化芸術・商業・運動・観光施設等の人が集まる拠点施設が集中し、中心市街地と千曲川左岸の居住地は、当市の大きな特徴であるローカル鉄道「別所線」で結ばれ、その沿線には、「信州の鎌倉・塩田平」「別所温泉」があり、多

くの観光スポットや林業振興施設が存在する。

４－２　地域の課題

人口減少、少子高齢化、地球温暖化の進展という国や地球規模の問題に伴い、上田市では、利用者の減少や担い手不足による公共交通の衰退、高齢化に伴う医療費の増大への対応が課題となっている。また、地球温暖化への対応として二酸化炭素の排出量を大幅に減少させることも課題となっている。

二酸化炭素排出量の減少に寄与するローカル鉄道別所線やバスといった地方公共交通は、急激な人口減少、車社会の進行といった背景に加え、新型コロナウイルス感染症による外出自粛や公共交通の利用を控えるといった影響により、利用客が大きく減少し、バス路線の廃止も相次いでいる。日常生活等における交通手段はマイカーが主となり、短い距離でも車を使用する「マイカー依存」が高まっている。そのため、上田駅付近の中心市街地から整備済の都市環状道路へアクセスする放射状の道路は混雑しており、特に移動経路が少ない千曲川渡河部の上田橋の混雑は著しく、市民生活の利便性低下や生活環境の悪化、並びに二酸化炭素排出の増加といった悪影響が大きくなっている。

また、林業従事者の不足や国産材の利用減少による森林の荒廃、高齢化に伴い、森林の持つ二酸化炭素吸収量は減少傾向にあることから、森林の若返りを図るための主伐・再造林・樹種転換を効率的に行う必要もあり、更に、高齢化に伴う医療費増大に対しては、住民が日頃から健康を意識してイキイキとした生活を送ることが重要で、日々、体を動かし健康で生きがいを持てる生活環境の整備が必要である。

これらの課題に対し上田市では、居住が多い別所線沿線地域を対象に、高い晴天率を活かした太陽光発電による「別所線のゼロカーボン運転」、拠点や駅にサイクルポートを設け、環境負荷の小さい電動アシスト自転車の利用を促進する「シェアサイクル」を柱とした「ゼロカーボンシティ」の実現を掲げ、令和 5 年 11 月には国の脱炭素先行地域に選定されている。また、日常生活で体を動かし、高齢になっても元気で生きがいを持って暮らすことができる「健康で幸福なまちづくり（健幸都市うえだ）」の実現を目指している。

４－３　計画の目標

こうした状況を踏まえ、別所線を絡めた、市道及び林道の一体的な整備を行うことで、来訪者が多い拠点施設間を主に歩行者や自転車が安全・安心、快適に観光・周遊できるネットワークの形成を図るとともに、中心市街地から都市環状道路へのアクセス向上に資する千曲川堤防道路の未整備区間を完成させることで、混雑を低減して交通の流れの円滑化、鉄道や自転車といった多様なモビリティーとのベストミックスにより「より低炭素な交通手段への転換」による二酸化炭素排出量削減や、日常の身体活動量の増加、運動の習慣化を図る。また、森林整備の実施個所へのアクセス道路を改善することで主伐・再造林・樹種転換の効率化を図り、二酸化炭素吸収量を増加させる。

これら市道、林道、鉄道それぞれの効果を共存させ「ゼロカーボンシティ」「健康で幸福なまちづくり（健幸都市うえだ)」を実現し、優れた自然環境や景観を保全し、市民や来訪者がそれらを満喫することで、多くの人々が住み、訪れ、元気で活力を持つ地域再生の実現を目指す。

【数値目標】

（目標１）　交通の円滑化（上田橋の混雑度の減少）

1.61（令和３年度）⇒ 1.29（令和 11 年度）

（目標２）　多様な交通手段への転換（シェアサイクルの利用回数の増加）

9,755 回（令和５年度）⇒12,700 回（令和 11 年度）

（目標３）　周遊ネットワークの構築（代表拠点地区への来訪者数の増加）

174 万人（令和５年度）⇒　233 万人（令和 11 年度）

（目標４）　森林整備の推進

0.0ha（令和５年度）⇒ 3.0ha（令和 11 年度）

５　地域再生を図るために行う事業

５－１　全体の概要

上田市は、上信越自動車道、北陸新幹線の整備により、大都市圏からのアクセスが改善されてきたが、市内の多くの人が集まる拠点間のアクセス道がぜい弱で

あり、上田市の大きな特徴であるローカル鉄道「別所線」との交通ネットワークを十分に活かし切れていない。

中心市街地から都市環状道路へのアクセス向上に資する千曲川堤防道路の整備が完成しておらず、また、中心市街地や別所温泉地区周辺において、自転車・歩行者が安全・快適に各拠点を周遊できるネットワークの整備、更には、森林の主伐・再造林・樹種転換を安全・効率的に進めるための林道整備が遅れている。

そのため、地方創生道整備推進交付金により、千曲川堤防道路の未整備区間である「市道上田橋中島線」（市道秋和上塩尻線、市道下塩尻中島線含む）の道路改築及び自転車歩行者道の整備、「市道泉平坂下線」「市道城下下城線」の舗装と歩行スペースの確保、「林道硯沢線」「林道半過線」「林道岳の尾線」の法面対策や舗装、防護柵の整備を一体的に行い、混雑の緩和及び低炭素な交通手段への転換、周遊ネットワークの構築、森林整備の推進が図られ「ゼロカーボンシティ」及び「健康で幸福なまちづくり（健幸都市うえだ）」の実現が期待される。

５－２　第５章の特別の措置を適用して行う事業

（１）地方創生道整備推進交付金【Ａ３００８】

対象となる施設は以下のとおりで、事業開始に係る手続き等を完了している。

なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

市道　道路法に規定する市道に認定済み。（　）内は認定年月日。

市道　上田橋中島線（昭和 61 年 12 月 18 日）

市道　秋和上塩尻線（平成 6 年 12 月 26 日）

市道　下塩尻中島線（昭和 61 年 12 月 18 日）

市道　泉平坂下線　（昭和 61 年 12 月 18 日）

市道　坂下下城線　（昭和 61 年 12 月 18 日）

林道　林道規定による林道台帳に路線を記載。

林道 硯沢線

林道 半過線

林道 岳の尾線

［施設の種類］　　［事業主体］

市道　　上田市

林道　　上田市

［事業区域］

上田市

［事業期間］

市道　　令和７年度～令和 11 年度

林道　　令和９年度～令和 11 年度

［整備量及び事業費］

市道　2.11km　、　林道 2.00km

総事業費　690,000 千円（うち交付金 327,307 千円）

市道　590,000 千円（うち交付金 295,000 千円）

林道　100,000 千円（うち交付金 32,306 千円）

［事業の実施状況に関する客観的な指標及び評価の方法］

	基準年度	Ｒ７	Ｒ８	Ｒ９	Ｒ10	Ｒ11
指標１ 混雑の緩和	（Ｒ３） 1.61	1.61	1.61	1.61	1.29	1.29
指標２ 自転車利用の促進	（Ｒ５） 9,755 回	10,700 回	11,200 回	11,700 回	12,200 回	12,700 回
指標３ 来訪者の増加	（Ｒ５） 174 万人	174 万人	189 万人	204 万人	219 万人	233 万人
指標４ 森林整備の推進	（Ｒ５） 0.0ha	0.0ha	0.0ha	0.0ha	1.5ha	3.0ha
指標５ 交通事故件数の減少	（Ｒ５） 30 件	30 件	30 件	25 件	20 件	15 件

指標１：上田橋の混雑度

混雑度＝交通量(台/12h) / 交通容量(台/12h)

指標２：上田市のシェアサイクルの利用回数

指標３：代表拠点地区（上田城跡公園、別所温泉）の来訪者数

指標４：区域内の森林整備面積（市有林）

指標５：上田橋中島線、秋和上塩尻線、泉平坂下線の交通事故件数

毎年度終了後に、上田市が必要な調査を行い、速やかに状況を把握する。

［事業が先導的なものであると認められる理由］

（政策・施策間連携）

市道、林道を一体的に整備することにより、個別で整備するのに比べてより効果的であり、混雑の緩和、低炭素な交通手段への転換、周遊ネットワークの構築による日常の身体活動量の増加、森林整備の促進、運動の習慣化といった地域再生の目標達成に資する事業となっている。

（デジタル社会の形成への寄与）

測量設計及び工事施工時にUAV（ドローン）レーザー測量、BIM/CIM等のICT技術を活用するほか、森林の主伐や再造林計画策定時にも、ドローンや、小型ヘリを活用した森林資源解析業務の検討をしており、コスト削減及び現場作業の効率化を図る。

また、シェアサイクルの利用サービスは、スマートフォンアプリを活用した独自の取組み（シェアサイクル活用推進事業）を活用することとしており、デジタル社会の形成に寄与する事業となっている。

５－３　その他の事業

地域再生法による特別の措置を活用するほか、「ゼロカーボン×健幸都市うえだを支える道づくり計画」を達成するため、以下の事業を総合的かつ一体的に行うものとする。

５－３－１　地域再生基本方針に基づく支援措置

（１）産学官による、まちなか×地域振興計画（地方創生推進交付金）

内　容　　シェアサイクル活用推進事業

令和３～５年度に、中心市街地及び別所線沿線エリアを対象にサイクルポートを設置し、シェアサイクルによる「まちの活性化」「観光振興」「ゼロカーボン社会構築」等への効果を探るため社会実験を実施し、スマートフォンアプリによる位置情報、利用可能台数などのデータ取得、貸出・返却の無人サービス化を可能とした。現在、運営主体は鉄道事業者を含めた民間事業者に移し、鉄道利用者の定期券との連携など、民間主体による継続的な事業展開を進めている。

実施主体　　上田市

実施期間　　令和６年度から

５－３－２　支援措置によらない独自の取組

（１）上田橋下堀線整備事業

内　容　　中心市街地にある千曲川右岸堤防道路は、市民が多く利用する主要道路として、上田駅付近中心に東西方向に向けて片側歩道付き改良工事を実施している。東側の未整備区間は既に改良を進めており、西側の上田橋中島線の整備により、千曲川右岸堤防道路の整備が完了し、東西方向の連絡強化、上田駅等拠点施設へのアクセス向上、並行する国道 18 号の混雑解消、千曲川堤防の歩道整備が完了する。

実施主体　　上田市

実施期間　　平成 30 年度から

（２）森林整備事業

内　容　　別所温泉市有林及び小泉市有林において、伐期を迎えたスギ等を主伐してカラマツの植栽を実施する。

事業面積　　2.4ha

実施主体　　上田市

実施期間　　令和９年度から

（３）松くい虫防除対策事業

内　容　　小泉市有林において、松くい虫被害を受け枯損したアカマツの有効利用を図るため、被害木等の伐採・搬出を実施する。

事業面積　　0.6ha

実施主体　　上田市

実施期間　　令和９年度から

（４）資源循環型施設建設事業

内　容　　施設の老朽化、環境負荷の低減等の課題に対応するため、分散する３つのクリーンセンターを廃止し、一つに統合する統合クリーンセンター（資源循環型施設）を建設する。

実施主体　　上田地域広域連合

実施期間　　令和７年度から

（５）余熱活用周辺施設整備事業

内　容　　統合クリーンセンター（資源循環型施設）で発生する余熱を有効利用する地域交流拠点施設及び公園緑地を整備する。

実施主体　　上田市

実施期間　　令和７年度から

（６）脱炭素先行地域関連事業

内　容　　上田市地域エネルギー会社を設立し、小売電気事業、自営線マイクログリッド事業、エネルギーマネジメント事業、PPA 事業、発電事業、リース事業を実施する。

実施主体　上田市地域エネルギー会社（上田市 50%超　出資）

実施期間　令和６年度から

（７）第四次上田市民健康づくり計画

内　容　　「健康日本21　第三次」に基づき、「一人ひとりが健康で幸福なまち健幸都市の実現を目指す計画

実施主体　上田市

実施期間　令和６年度から

（８）長野県自転車活用推進計画

内　容　　「自転車活用推進法第10条」、「長野県自転車の安全で快適な利用に関する条例第11条」に基づき、県の自転車利用の考え方及び自転車の活用の推進に関する施策の方向性と、その具体化のための取組を定める。

・「すべての人が自転車を安全に利用する信州」の実現

・「自転車を利用するライフスタイルにあったまちづくり」

＊主要な施設や地域をつなぐネットワークの設定や整備、レンタルサイクル・シェアサイクルの普及を推進。

＊長野県一周サイクリング Japan Alps Cycling Road

・「人も自然も健康な信州」の実現

＊自転車による健康づくりを推進、環境負荷の低い交通手段への転換。

・「Japan　Alps　Cycling」ブランドの構築

実施主体　長野県

計画期間　令和５年度から

６　計画期間

令和７年度～令和 11 年度

７　目標の達成状況に係る評価に関する事項

７－１　目標の達成状況に係る評価の手法

４に示す地域再生計画の目標については、計画期間の中間年度及び計画年度終了

後に上田市が必要な調査等を行い、速やかに状況を把握する。

７－２　目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

	基準年度	Ｒ９ （中間年度）	R11 （最終目標）
目標１　交通の円滑化 上田橋の混雑度	（Ｒ３） 1.61	1.61	1.29
目標２　多様な交通手段の転換 シェアサイクル利用回数	（Ｒ５） 9,755 回	11,700 回	12,700 回
目標３　交通ネットワークの構築 代表拠点地区の来訪者数	（Ｒ５） 174 万人	204 万人	233 万人
目標４　森林整備の促進 区域内の森林整備面積	（Ｒ５） 0.0ha	0.0ha	3.0ha

（指標とする数値の収集方法）

項目	収集方法
上田橋の混雑度	上田市の交通量調査より
シェアサイクル利用回数	上田市の集計データより
上田城跡公園、別所温泉の来訪者数	上田市の集計データより
別所温泉地区・小泉地区　市有林　森林整備面積	上田市の集計データより

・目標の達成状況以外の評価を行う内容

１．事業の進捗状況

２．総合的な評価や今後の方針

７－３　目標の達成状況に係る評価の公表の手法

４に示す地域再生計画の目標に対する中間評価及び事後評価の内容については、速やかに上田市ホームページにより公表する。